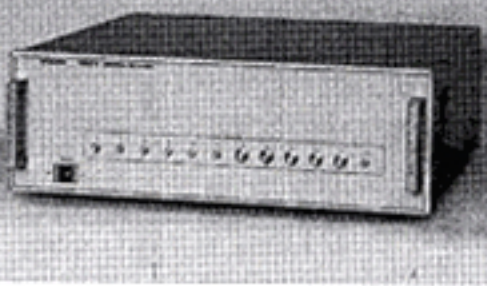


DSRC技術向け試験機

QPSK方式対応

ロス
マイク
クニ

【立川】マイクロニクス（東京都八王子市、田仲克彰社長、042・637・3667）は、QPSK（用語参照）変調



方式の電波に対応した狭域無線通信（DSRC）技術向けの試験システム「ME9010」写真」を開発した。DSRCは料金自動收受システム（ETC）などに使われる技術。ETC車載器メー

【用語】QPSK（Quadrature Phase Shift Keying）の略で、4位相変調の意味。無線伝送の電波変調方法の一つ。従来のASK（Amplitude Shift

カーに販売する。価格は752万円。QPSK方式に対応したDSRC技術向け試験機は国内初。スペクトラムアナライザ、電波暗箱などが付いたパッケージ「ME9000」（価格は113

ft Keying）方式が、1単位区間に2分の1のデータしか乗せられないのに対し、この4倍の2分の1のデータが乗るため、ブロードバンド（高速大容量）通信を可能にする。

2万円）を同時発売し、初年度20台の販売を目指す。

ETCは走行中に目的地情報をリアルタイムで提供したり、給油中など短時間での音楽データ取得など、通行料金支払い以外の大容量通信が期待

される。この実現には電波の伝送方式を現在のASK方式から、4倍の早さで大容量通信できるQPSK方式への移行が必要になる。

すでに大手電機メーカーが、QPSK方式を採用したDSRC技術を開

発。この技術を搭載したETC市場向け試験機の需要が高まりつつある。新製品の「ME9010」はASK、QPSKの両方式に対応。技術基準適合証明にかかわる七つの双方向無線試験ができる。